東京都指定有形文化財（建造物）

旧本田家住宅だより

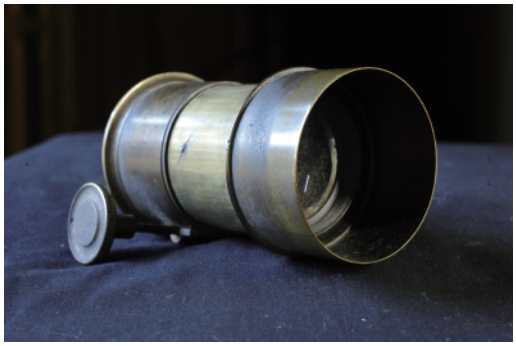
Vol.7　2023.6

◎本田家の写真関係資料

江戸から平成まで本田家代々の人々が住み続けた家屋には多岐にわたる膨大な資料が残されていますが、近代以降で特徴的なものに写真関係の資料が挙げられます。

今でこそ写真はスマートフォンやデジタルカメラで誰でも簡単にきれいに撮れる身近なものですが、かつてはカメラもレンズも大変高価で、撮影や現像には技術が必要でした。本田家には、木製の暗箱カメラ（ボディ）からコンパクトカメラまでの各時代のカメラ、レンズ（特にペッツバール型レンズは刻印から1840年代頃から生産されたフランス製の肖像写真用と判明）、木製の三脚や冠布（かんぷ）（大判カメラの撮影時にピントグラスをのぞく際に使われる遮光布）暗室用具（写真を現像する道具）、ガラス乾板（かんぱん）（ガラス板に感光材を塗って被写体を写すもので、ネガフィルムが普及する以前に広く使われた）、ネガフィルム、アルバム等、明治から平成にかけて各時代の写真に関係するものが大切に保管されてきました。

木製暗箱カメラ（ボディ）

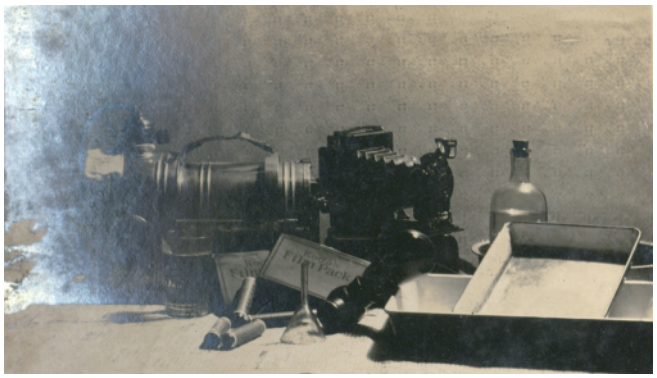


ペッツバール型レンズ

明治時代、谷保村で最初にカメラを手に入れたのは本田家だと考えられます。家には明治中頃に長崎で写真機を手に入れたという話が伝わっています。

14代定寿氏（1878～1935）の日記には明治30（1897）年に写真機を購入したことや、明治35（1902）年に谷保天満宮の狛犬や女性教師等を撮影したことが記されています。古いアルバムには、写真館で撮影された記念写真も多くありますが、それらに混じって明治後期から大正にかけて定寿氏の子供たち、親戚や地域の人々、家の周辺の様子、開業時の国立駅舎等の写真も収められており、おそらくは定寿氏が撮影したものと思われます。

カメラと三脚　昭和２年



写真現像器具　昭和２年

定弘氏５才　明治42年
（本田家の庭か）

カメラを持つ定弘氏　昭和初期

ヤヱさん（左）と定弘氏の妹の
美面代さん（縁側）　昭和初期

朝顔と定寿氏（裏庭）　昭和初期

定寿氏の書斎と娘の谷江さん　昭和初期

小さい頃から父の姿を見ていたからでしょうか、15代定弘氏（1906 ～ 1990）も大学生の頃写真に夢中になり、家の押入れを暗室にして現像をしていたそうです。昭和初期になると毎年お正月に床の間の前で家族写真を撮るのが恒例となり、昭和７（1932）年に府中から定弘氏のもとに嫁入りし、平成21（2009）年まで本田家に住み続けたヤヱさんの姿もその中に加わりました。昭和中期頃にはモノクロからカラーへと写真も変化していきますが、定弘氏は晩年まで撮影を続け、家族や親戚、近隣の人たち、家や庭、日々の暮らし、お祭りなどの行事や冠婚葬祭、旅行など、アルバムには思い出とともにたくさんの写真が残されました。

これらは本田家の家屋や庭の変遷を知るうえで重要な資料として復原調査に活かされているのみならず、明治から平成にかけての国立市周辺地域の歴史や文化の移り変わりが画像で記録されている大変貴重な資料でもあります。地域全体の大事な財産として適切に保存し、長く後世に伝えることが求められます。　（本田家調査員　萩原紀子）

旧本田家住宅へのアクセス

住所：国立市谷保 5122
①JR 南武線「谷保」駅
　から徒歩６分
②JR 中央線「国立」駅
　からバス 10 分
　（聖蹟桜ヶ丘駅」行き）
　「国立府中インター入口」
　下車徒歩１分
※現在工事中のため、敷地内に入ることはできません。表門は外側から見ることができます。

発行：国立市教育委員会　生涯学習課　社会教育・文化芸術係（市役所３階 45 番窓口）
☎042-576-2111（内線：323）メール：sec_shogaigakushu@city.kunitachi.lg.jp